

# たまねぎレポート【第430号】



令和5年8月26日

阪南青果株式会社

## 社内報

7月の天候は、気温は北・東日本でかなり高く、西日本と沖縄・奄美で高くなった。降水量は北・西日本の太平洋側ですくなかった。日照時間は北・東日本の太平洋側と東日本の日本海側でかなり多く、北日本の日本海側と西日本の太平洋側で多くなった。北海道では、月平均気温はかなり高く、月降水量は平年並み、月間日照時間は多かった。8月に入り、中旬には台風6号が接近、続いて台風7号が上陸し、広範囲で風水害が発生した。今年は盆が過ぎても、全国的に暑い日が続いている。

気象庁の9～11月の3か月予報では、この期間の平均気温は、北日本で平年並みまたは高い確率ともに40%、東・西日本で高い確率50%、沖縄・奄美で高い確率60%。降水量は、東・西日本の太平洋側と沖縄・奄美で平年並みまたは多い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

9月、北日本と東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。東日本

の太平洋側と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ない。西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ない。

10月、北・東日本と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わる。西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

11月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。東・西日本の日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。北・東日本の太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。北・東日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

## 野菜の市場概況

建値市場の7月の野菜の販売量は、203,800トン前年比100%(前月比97%)平均単価はkg ¥257前年比108%(前月比103%)。市場別には多少の差があるものの、総じては販売量は前年並み、単価は前年比やや高値となっている。市場別の販売量と平均単価及び前年比は、札幌市場の販売量は前年比102%、平均単価はkg ¥245前年比106%。東京市場の販売量は前年比100%、平均単価はkg ¥271前年比108%。名古屋市場の販売量は前年比97%、平均単価はkg ¥248前年比108%。大阪本場の販売量は前年比102%、平均単価はkg ¥258前年比108%。福岡市場の販売量は前年比108%、平均単価はkg ¥198前年比108%となっている。

建値市場の7月の玉葱の販売量は19,610トンで前年比109%、(前月比91%)、平均単価はkg ¥117前年比72%(前月比122%)となっている。市場別では、札幌市場の販売量は1,783トン前年比123%、平均単価はkg

¥124前年比70%。東京市場の販売量は8,154トン前年比108%、平均単価はkg¥123前年比76%。名古屋市場の販売量は4,524トンで前年比103%、平均単価はkg¥111前年比69%。大阪本場の販売量は3,237トン前年比115%、平均単価はkg¥112前年比71%。福岡市場の販売量は1,912トン前年比103%、平均単価はkg¥112前年比72%となっている。

東京都中央卸売市場の7月の野菜の入荷量は、110,598トン前年比102%、旬別では上旬がkg¥273で前年比110%、中旬が¥272で前年比106%、下旬が¥268で前年比107%、となっている。主要15品目で入荷量が前年比増の品目は、ダイコンが前年比115%、タマネギが108%、ナスが107%、ピーマンとネギが106%、ハウレンソウとキュウリが105%、ネギが104%など8品目。入荷が前年比減の品目は、サトイモの前年比69%を始め、キャベツが85%、ナマシイタケが91%、ハクサイ・キャベツが92%、バレイショが95%など7品目。価格が前年比高の品目は、バレイショがkg¥175で前年比179%、サトイモがkg¥594で前年比175%、キャベツがkg¥97で124%、ハクサイがkg¥74で120%、ナマシイタケがkg¥979で118%、ピーマンがkg¥485で117%、トマトがkg¥374で114%など11品目。前年比安の品目は、ダイコンがkg¥92で前年比66%、タマネギがkg¥123で76%、ニンジンがkg¥146で87%、ネギがkg¥335で91%、など4品目となっている。

### 東京都中央卸売市場の7月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	110,598	100.4	95.4	271	107.6	101.9
た ま ね ぎ	8,154	108.1	85.0	123	75.5	128.1
キャベツ	15,191	92.0	106.5	97	124.4	102.1

はくさい	5,444	93.5	87.9	74	120.3	113.9
だいこん	7,170	115.1	104.6	92	65.8	100.0
にんじん	5,129	98.5	82.0	146	86.8	104.3
ばれいしょ	4,032	94.5	56.7	175	178.9	114.4
レタス	9,625	100.2	116.6	124	116.1	90.5
ねぎ	3,429	106.0	94.7	335	91.4	76.7
トマト	6,647	95.4	90.0	374	113.5	127.2
きゅうり	7,056	104.5	105.0	297	108.0	103.9
かぼちゃ	1,902	90.4	84.0	215	98.2	86.7
ながいも	746	77.2	107.8	442	151.9	100.7
れんこん	377	173.8	210.6	498	66.8	48.7
にんにく	150	79.0	77.7	908	98.5	111.0

## 玉葱の概況

### 需要(市場)の動き

#### 東京市場

東京都中央卸売市場の7月の玉葱の入荷販売量は8,154トン前年比108%(前月比85%)。主力は兵庫物で入荷量は4,759トン前年比117%、占有率は51%で前年比4ポイントアップ。佐賀物は1,687トン前年比110%、占有率21%前年比1ポイントダウン。香川物は543トン前年比185%、占有率7%で前年比3ポイントアップ。北海物は258トン前年比75%、占有率3%前年比2ポイントダウン。富山物は250トン前年比63%、占有率3%で前年比2ポイントダウン。総平均単価はkg¥123前年比76%(前月比128%)。産地別平均単価は、兵庫物はkg¥127前年比74%、佐賀物はkg¥127前年比76%。香川物はkg¥119前年比63%。北海物はkg¥162で前年比118%。富山物はkg¥95前年比72%となっている。

8月に入り、佐賀物は JA 白石の除湿乾燥品の入荷が続き、残量の上方修

正があり8月一杯の入荷予定となった。今年の品質には難があり客離れで、受け皿が乏しい。北海物は、JA北みらい、JAふらのがメインの入荷で事前取引価格を決めていたこともあり、完売状態である。価格は産地離れL大¥1,600、L¥1500、盆明けには値下げの予定。今週末になっても、佐賀物が不定期の入荷があるも、売れなくなり加工筋等に投げ売りの状態である。北海物は、北みらい、富良野、えんゆう、のJA物が入荷、未だに極早生が主力で、何れの銘柄も腐敗品が多く、品質は今ひとつである。2L・L大はそれなりに捌けているが、L、Mの売れ行きが悪く売れ残り在庫が増えている。

8月1日～19日の玉葱の販売量は5,690トン前年比102%(前月比104%)、平均単価はkg¥116前年比78%(前月比97%)。産地別の販売量と平均単価は北海物が3,479トン前年比87%、平均単価はkg¥113前年比81%。兵庫物は1,375トン前年比157%、平均単価はkg¥128前年比62%。佐賀物は497トン前年比329%、平均単価はkg¥114前年比62%。富山物は140トン前年比69%、平均単価はkg¥101前年比83%となっている。

### 名古屋市場

名古屋中央卸売市場の7月の玉葱販売量は4,524トン前年比103%(前月比106%)で前年比、前月比ともに増となっている。主力は兵庫物で2,928トン前年比89%、占有率は65%で前年比10%ダウン。北海物は699トン前年比196%、占有率は15%で前年比7ポイントアップ。富山物は276トン前年比79%、占有率6%で前年比2ポイントダウン、愛知物は152トン前年比118%、占有率は3%で前年と同じ。総平均単価はkg¥111前年比69%(前月比117%)。産地別の平均単価は、兵庫物はkg¥120前年比69%。北海物はkg¥75前年比110%。富山物はkg¥115前年比71%。愛知物はkg¥94前年比82%。となっている。

8月に入って、盆需要を期待したが売れ行きは期待外れであった。盆明けは、兵庫物の入荷は日量25トン程度だが、荷動きが鈍く売れなくなった。値段が高く、黒煤や腐敗の発生でクレームが多くなった。売れ残り在庫を抱えており、受け皿探しに苦労している。北海物は100トン程度の入荷で、北見地区、富良野地区がメイン。品質は乾腐病などの腐敗があり、現在の売れ行きからは100トンは多すぎるので、出荷要請は控えているが、盆需要が伸びず売れ残り在庫を抱えている。現在は日量120トン程度の入荷で、JA北みらい、JA富良野が主力。淡路物の販売を打ち切ったので、北海物の動きはまずまずである。相場は保合だが、L大¥2,000、L¥1,800の仕切り値では正常な利益は出ない。

#### 大阪本場

大阪市中心卸売市場本場の7月の玉葱の販売量は3,237トン前年比115%(前月比92%)で前年比増、前月比減となっている。産地別の販売量は、兵庫物が2,816トン前年比113%、占有率87%で前年比1ポイントダウン。佐賀物は158トン前年比2617%、占有率は5%で前年比5ポイントアップ。北海物は100トン前年比9642%、占有率3%前年比3ポイントアップ。愛媛物は94トン前年比68%、占有率3%前年比2ポイントダウン。総平均単価はkg112前年比71%(前月比128%)。産地別の平均単価は、兵庫物はkg¥113で前年比69%、佐賀物はkg¥124前年比58%。北海物はkg¥113前年比106%。愛媛物はkg¥74前年比56%。となっている。

8月に入って、盆の連休市を控えて、兵庫・北海物とも入荷増となったが、盆需要は伸びず売れ行き鈍く、品質も今一つで兵庫物は下値中心の販売。北海物も入荷は増加傾向となったが、売れ行き鈍く売れ残りが多数発生した。産地は強気で指値が下がらず、販売値を下げる事が出来ず、卸会社の苦労は深刻。兵庫のJAの出荷は関西市場に集中しているため、引き合いが鈍く、いず

れのサイズも売れ残りが発生している。北海物は 2L、L大は引き合いあり仲値中心の販売だが、L・Mは引き合い鈍く売れ残りが増加傾向。

8月1日～19日の玉葱の販売量は2,175トン前年比115%、前月比107%平均単価はkg ¥110前年比67%、前月比99%。産地別の販売量と平均単価は、兵庫物が1,393トン前年比121%、平均単価はkg ¥111前年比61%。北海物は768トン前年比106%、平均単価はkg ¥107前年比79%。となっている。

### 福岡市場

福岡市中央卸売市場の7月の玉葱販売量は、1,912トン前年比103%(前月比(86%))で、前年比増、前月比減となっている。主力は佐賀物で、販売量は1,324トン前年比98%、占有率69%前年比3ポイントダウン。中國物は137トン前年比71%、占有率7%前年比3ポイントダウン。北海物は135トン前年比111%、占有率7%前年比1ポイントアップ。長崎物は91トン前年比91%、占有率5%前年比と同じ。総平均単価はkg ¥112前年比72%(前月比126%)で前年比安、前月比高となっている。産地別の平均単価は、佐賀物はkg ¥116前年比70%。中國物はkg ¥86前年比78%。北海物はkg ¥92前年比98%。長崎物はkg ¥101前年比58%。となっている。

8月に入って、盆前の入荷は佐賀物主力だったが、JA白石の選果機故障で入荷は激減、品不足で注文に応じきれず、産地を問わず品集めに苦労した。今週の入荷は北海物主力となり、佐賀物は少量となっている。北海物の動きは良いが、今年の品物は腐敗が多く買い受け人からのクレームが多い。仕切値は、L 大 ¥2,300、L ¥2,000で他市場に比べ運賃差で高くなっている。転送物で割安の品物があるが買わずに、直送品の販売に努めている。

8月1日～19日の玉葱の販売量は1,273トン前年比96%(前月比103%)

で前年比減、前月比増となっている。平均単価はkg ¥109前年比68% (前月比91%)で前年比・前月比とも安値となっている。

### 8月25日(金)の建値市場の玉葱市況は次の通り

#### 【札幌市場】 販売量95トン 強い

北 海 20kgNT2L ¥1,600~1,500、 L大 ¥1,500~1,400、 L ¥1,200~1,000、  
M ¥1,000~1,000。

北 海 20kgDB2L ¥1,600~1,550、 L大 ¥1,500~1,300、 L ¥1,200~1,100、  
M ¥1,000~ 800。

#### 【太田市場】 販売量240トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,000~1,800、 L大 ¥2,200~2,000、 L ¥2,000~1,800、  
M ¥1,800~1,600。

佐 賀 20kgDB2L ¥1,500~ L ¥1,500~ M ¥1,300~

#### 【名古屋北部市場】 販売量121トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,000~1,800、 L大 ¥2,200~1,800、 L ¥2,000~1,700、  
M ¥1,600~1,500。

#### 【大阪本場】 販売量132トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥1,800~1,600、 L大 ¥2,200~1,900、 L ¥1,600~1,400、  
M ¥1,300~1,200。

兵 庫 20kgDB2L ¥1,700~1,600、 L ¥2,200~2,000、 M ¥1,800~1,700。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,000~ 900、 L ¥1,300~1,100、 M ¥1,000~ 900。

#### 【福岡市場】 販売量147トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200~1,800、 L大 ¥2,600~2,200、 L ¥2,300~2,000、

M ¥ 1,800~1,600。

佐 賀 20kgDB2L ¥ 1,500~1,200、 L ¥ 1,800~1,400、 M ¥ 1,500~1,200。

### **供給(産地)の動き**

府県産の即売出荷は、佐賀は既に一部を除き出荷は終了し、兵庫は今月中に殆ど終了する。8月の市況が期待に反し、弱含んだことで切り上がりが予想より遅れている。北海産は、気温の上昇で生育は前進化し、極早生は豊作型となったが、後続の中晩生は高温続きで葉枯れが早く、平年作が精々と予想されている。収穫は前進化したものの、8月の高温と大雨に阻まれ、出荷は後ズレしている。今年の様な高温続きでは、根切りをした圃場の温度は気温よりかなり高く、圃場で長時間風乾をすると焼きが出る可能性があり、乾燥不良の収穫が多くなっている。

### **府県産地**

佐賀では、貯蔵用の吊り球が年々少なくなり、盆明けから初秋の出荷は無くなりつつある。冷蔵物も少量で、加工原料向けの入庫が主力となっている。現在の産地在庫は前年よりかなり少ない。此の先、生産者は来シーズンの播種の準備に入るが、種子の事前注文も少ない模様。肥料・農薬など農業資材が高くなり、今年の様な市況展開では、栽培意欲が減退し、特に高齢者の作付け減が多くなる。

兵庫の主産地淡路島では、現在の出荷は即売物の短期貯蔵と短期の冷蔵物の出荷となっている。今年産は大豊作であったことで産地在庫は多い。近年栽培面積では、佐賀より少ないものの出荷量は佐賀を上回り、府県産トップの産地になっている。現在の即売在庫は、出遅れた北阿万・賀集が多い。品質劣化や黒煤などの病害が発生し品質は今ひとつで、出荷に焦りが見受けられる。

この先販売の主力となる冷蔵物は、前年比増と言われているが今年は、容器が様々で、集計に時間がかかっている。従来はポリコン詰めの入庫が殆どであったが、今年はポリコン詰めに加えて鉄コン詰めがあり、更には葉付き根付きの儘で入庫し、秋冬期の農閑期の出荷時にタッピング調整する等、容器と内容が混在している

### **北海道産地**

今年の北海道産玉葱の作付生産概況は、高温障害の傾向で枯上がりが早く球肥大が懸念されるが、7月の調査では作付面積は12,375ha(前年比104%)、平均反収5,820kg(前年比97%)、生産量720,010トン(前年比101%)、出荷量686,760トン(前年比102%)と予想されている。今年の北海道地方は8月の立秋を過ぎても、酷暑の日が多く高温障害が懸念されている。道庁の出先機関の8月15日調査の農作物生育状況では、玉葱の生育は前進化しており、全道的に枯葉期が早いと報告されている。いずれの地域も、作柄に圃場格差があり、全道的には平年作が精々と予想している。

### **輸入の動き**

7月の輸入量は速報値で17,592トン前年比80%。国別では、主力の中国が17,161トン前年比85%。オーストラリアが291トン前年比102%。ニュージーランドが135トン前年比9%。日本市場は府県産の潤沢な出回りと北海物の生育が順調との報告で市況安となり、猛暑続きで需要が伸びず、更には為替の円安で輸入物はコスト高で、前年比大幅減となっている。

中国、供給産地は甘粛省に移行している。今シーズンの栽培面積は不詳だが、水不足で減少した地域と一部前年比増の地域があると伝えられている。更に国策で作物の転作要請もあり、詳細は入手していないが、総じて球肥大はやや細い。現在の日本向け価格は、剥き玉20kg・C&F・\$8.00の水準である。

## 9月の市況見通し

8月市況は、猛暑のなか売行きが伸びず、更には府県産の品質劣化や北海物の病害や高温による焼けの品質低下もあり、品質低下で荷動きは今ひとつであった。いずれの夏秋野菜も高温障害で品質に難があり、需要の伸びは期待薄である。玉葱は北海物主力の販売となるものの、例年になく品質低下が懸念される他、産地の強気に卸の苦勞が絶えず需給バランスは崩れそうである。いずれにしても、産地は厳選出荷を専一に心掛けなければ、需要は減退傾向となる。9月からは北海物の出荷が最盛期に入るが、品質的に高値は望めない。8月相場を下回ると見ている。(笹野敏和記)

追伸 小生先週後半から体調不良で欠勤し、編集の不備と遅れを心からお詫びする。